園だより

2025. 8月

認定こども園　下関短期大学付属第二幼稚園

山口県下関市彦島塩浜町２丁目2-21　☎　083(266)5821

「原体験」のすすめ

先日の七夕に、子どもたちは思い思いに願い事を短冊に記していました。たいていの子が「〇〇になりたい」とか「〇〇がほしい」とか、いかにも子どもらしい願い事を書いている中で、ある男の子の短冊には「ママの病気がなおりますように」と書かれていました。この子のお母様は進行性の病気を患っておられます。自分のことよりも大好きなママのことを願うその子の優しさに心を打たれた担任は、その短冊を星に一番近い笹のてっぺんに吊るしてくれました。

さて、ひこっとランドマリンビーチも海開きとなり、いよいよ夏本番。もうすでに真夏のような毎日ですが、これからが海や山や川が賑わう季節です。

子どもの頃の夏の思い出は、不思議なことに大人になっても忘れることがありません。海の水のしょっぱさ、日焼けした肩のひりひり、花火の火薬の匂い…。

幼少期に五感、とりわけ触覚・嗅覚・味覚で体験したことは、永遠に忘れることがないそうです。これが「原体験」です。兵庫教育大学山田卓三氏は、原体験の類型と具体的事例を以下のように挙げています。（「ふるさとを感じるあそび事典」（1990 年　農文協出版）

火体験	・熱さを感じる　・焦げる匂いをかぐ　・けむたさ　・火を起こす、保つ、消す
石体験	・石を投げる　・石を積む　・きれいな石を探す　・石で書く　・大きな石を動かす
土体験	・素足で土に触れる　・土の温もりと冷たさ　・土を掘る　・土をこねる　・土器づくり
水体験	・雨に濡れる　・自然水を飲む　・水かけ遊び　・浮かべる　・海で泳ぐ　・川を渡る
木体験	・木に触れる　・木の匂い　・木の葉、実を集める　・棒を使う　・木、竹、実のおもちゃ
草体験	・草むらを歩く　・抜く　・ちぎる　・匂いをかぐ　・食べる　・草で遊ぶ
動物体験	・捕まえる　・触る　・匂いをかぐ　・飼う　・見る　・声を聞く　・食べる
ゼロ体験	・暗闇を歩く　・日の出を見る　・林を歩く　・飢え　・渇き

これらの原体験を子どもたちはどのくらいしているでしょう。以前、私が勤めていた小学校で１，２年生と焼きいもをしたとき、ある１年生の子が「初めて火を見た」と言ったのには驚きました。園でも子どもたちと焼きいもをしているのは、原体験をしてほしいからです。

プールでは、担任が子どもたちと「サイレントゲーム」をしています。みんな仰向けになり顔を空に向け、静かに水の音だけを聞く体験です。目をつぶると、ちゃぷんちゃぷんと波を打つ音だけが聞こえ、まるでプールに自分ひとりだけしかいないような感覚になります。いつもの賑やかなプールとは違った新鮮な気持ちになるのです。これも原体験。

子どもは原体験を通して自然と向き合い、自然とのかかわり方を知ります。それはやがて、自分自身と向き合い、他者とのかかわり方を知ることにも通じます。人間もロボットもＡＩも、すべて宇宙、地球という大自然の恵みがあってこそ存在できるのです。

原体験に多少の怪我は付き物。「怪我は子どもの勲章」と言われるように、怪我を恐れて何もさせないのでは、どこまでが安全でどこからが危険かを自ら本能的に見極める力が身に付きません。大きな怪我だけは気を付けて、自然の中でお子様が自由に遊ぶ姿を見守り、ときには保護者も童心に帰って一緒に原体験を楽しまれるのもいいですね。ゲーム機や YouTube も様々な疑似体験ができますが、バーチャルはいくら体験しても五感には届きません。今年の夏も、またひと回りたくましくなる夏になることを期待しています。～原色の　夏に染まれや　二幼の子～　（園長　寺本　明生）